

CENTENARY

2012. 6. 21
第 64 号
兵庫県立加古川西高等学校



文武両道による人格の形成

文化祭特集

6月15(金)・16(土)の両日に、文化祭が開催されました。

本校は、土曜日開催をしている数少ない高校のひとつですが、今年も多く的一般来場者を迎え、雨模様にもかかわらず、盛大に行われました。

文化祭ですから、文化部中心は当然のことですが、一般生徒も全クラス参加で、大いに盛り上がりました。

では、紙面の許す限り、その模様を伝えたいと思います。



展示部門優勝

1-2の郡立女学校ジオラマ

本校の文化祭は、文化部発表はもちろんのこと、体育館と卓球場のステージと教室や屋外での展示、1年生だけの部門などで行われます。特に今年は新聞社が取材に来校し、100という共通テーマに因んだ1年2組のジオラマ(上段に掲載)が大きく紙面に取り上げられました。



書道部作品 「校訓」



書道部作品 「松筠」

松筠は本校同窓会名で、いつまでも心の触れ合う場という意味です。



校庭の美術部壁画



100周年ソノボルマークも登場



エンディング
校長お礼の言葉



3年生のクラス劇



吹奏楽部



コーラス部



茶華道部



美術部作品



オーボエ独奏 小林さん



ソプラノ独唱 藤野さん

また、今年は本校100周年の年なので、記念行事として、音楽活動をされている本校OBの演奏会ももたれました。

エンディングには校長からお礼の言葉があり、生徒会から花束が贈られました。心配された雨も小降りとなり、無事終了しました。

ちょっと一言 瀬戸内寂聴さんは次のように言っています。

「世の中は大きな編み物とってください。編み物は一目一目編んでいきます。編み物の目が、右の目と左の目と、上の目と下の目と、ずっとつながっているから次から次へとつながって、温かいマフラーや素敵なテーブルかけになるのです。あなたはその編み物の一目なのです」と。小さくともあなたの存在は大きいのです、と教えてくれています。 本校百年の歴史も同じではないでしょうか。